

第 2 回
日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー
報告書

～キャリアの広げ方～

日時：2022 年 3 月 26 日（土）10：00～11：30

会場：オンライン開催

主催：日本体育・スポーツ・健康学会若手研究者委員会

日本体育・スポーツ・健康学会若手研究者委員会 第2回セミナー

テーマ：『キャリアの広げ方』

日時：2022年3月26日（土）10：00～11：30

会場：オンライン開催

主催：日本体育・スポーツ・健康学会若手研究者委員会

話題提供者

佐藤 進 氏（金沢工業大学）

『健康・スポーツ科学分野における異分野連携のすすめ』

岩月 猛泰 氏（ペンシルベニア州立大学）

『キャリアの広げ方』

村田 浩一郎 氏（帯広畜産大学）

『多様な「ひとのつながり」でレジリエントな子どもを育成する次世代型ヘルスケア体操
コミュニティの構築』

野口 亜弥 氏（順天堂大学）

『キャリアの広げ方』

コーディネーター

城所 哲宏（発育発達研究領域）

平塚 卓也（体育・スポーツ政策研究領域）

当日のスケジュール

10：00～10：05 開会挨拶

10：05～10：45 各演者の話題提供

10：45～11：00 全体セッション

11：00～11：25 交流セッション

11：25～11：30 閉会挨拶（写真撮影、アンケートのお願い）

第2回 日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー

キャリアの広げ方

教育・研究以外のフィールドでも活躍されている研究者の方に活動内容、課題、今後のビジョンを伺います

2022 年

3 月 26 日 (土) 10:00

~11:30

オンライン開催・参加費無料

演者 佐藤 進 (金沢工業大学)

岩月 猛泰 (ペンシルベニア州立大学)

村田浩一郎 (帯広畜産大学)

野口 亜弥 (順天堂大学)

QR コードからお申し込みください →



主催：日本体育・スポーツ・健康学会若手研究者委員会

演者プロフィール



佐藤 進（金沢工業大学）

金沢工業大学 基礎教育部 教授。これまで健康・スポーツ科学の立場から研究・教育に関わってきました。その一つに地域高齢者の転倒予防に関する仕事がありました。我々の分野の手法だけでは、効果を地域全体に展開させるには限界がありました。ある交友関係をきっかけに、異分野・異業種の方々と連携することとなり、結果的にそれまでとは異なる方法で課題に取り組むことや、別の解決方法を持つ方との新しい出会いなどが生まれました。他の演者の先生方のように大学の教育・研究を離れてのキャリアアップではありませんが、私の例をご紹介しますながら我々の分野における異分野・異業種連携について意見交換ができれば幸いです（各種グラントを獲得するうえで、異分野・異業種連携はトピックの一つかもしれません）。



岩月 猛泰（ペンシルベニア州立大学）

アメリカのペンシルベニア州立大学、運動学学部の助教として、スポーツ・運動心理学、運動学習・制御、研究方法論の教鞭を執る。研究論文 27 本掲載済。Google 社でアジア地域担当のメンタルパフォーマンスコンサルタント、NASA で研究評価員としても活動。日本大学卒業後、日本大学大学院修了。渡米後、マサチューセッツ州のスプリングフィールド大学は最優秀学生で修士号を取得し、同学男女テニス部の総監督にも就任。学費全額免除・生活費支給によりネバダ大学で博士号を取得し、現職に至る。YouTube で「イワツキ教授 in USA」を開設し、現在チャンネル登録者数 4,000 人。アメリカ留学や英文校閲のサポートも手掛ける。HP: <https://hiroiwatsuki.com/>



村田浩一郎（帯広畜産大学）

身体運動を主活動とした地域コミュニティの育成的運営をテーマとしている。2015 年 4 月、1 歳から 12 歳までの児童を対象とした体操コミュニティ「ちくだい KIP」を創設し、現在総会員数は約 500 名となっている。ちくだい KIP はソーシャルビジネスとして持続可能な体制を模索しており、会費・補助金・業務受託金等によって 6 名の常勤スタッフを確保している。主事業以外にも高齢者のストレッチング・トレーニング教室事業、発達に不安のある子を対象としたクラスの開講、医療的ケア児の運動会、不登校児のための体操教室などを通し、コミュニティ全体のバリアフリー化を目論んでいる。あらゆる人のヘルスケアを「ごちゃまぜ」に大切にするコミュニティを目指している。HP: <https://chikudaikip.com>



野口 亜弥（順天堂大学）

専門は「スポーツと開発」と「スポーツとジェンダー・セクシュアリティ」。米国の大学院にて MBA を取得。スウェーデンでのプロ女子サッカー選手の経験を経て現役を引退。その後、ザンビアの NGO にて半年間、スポーツを通じたジェンダー平等を現場で実践。帰国後、スポーツ庁国際課に勤務し、国際協力及び女性スポーツを担当。現在は順天堂大学スポーツ健康科学部に於て助教。各種講演や NGO や行政のプロジェクトにも専門家として参画。博士課程在籍。一般社団法人 S.C.P. Japan 共同代表、ブライドハウス東京理事、順天堂大学女性スポーツ研究センター研究員。

セミナースケジュール

趣旨説明	10:00～10:05
各演者の話題提供	10:05～10:45
ディスカッション	10:45～11:00
交流セッション	11:00～11:25
閉会挨拶	11:25～11:30

お問い合わせ

日本体育・スポーツ・健康学会
若手研究者委員会
担当：城所哲宏（日本体育大学）
kidokoro@nittai.ac.jp
<https://taiiku-gakkai.or.jp/wakatenokai>

1. 開会挨拶

社会が多様化している現代において、我々大学教員は、研究や講義を行うという活動のみに留まることなく、社会とのつながりを意識した新たなフィールドでの活動もより一層重要となってくると思います。今回、大学に所属しながら、新規ビジネスの立ち上げや、官学連携事業、非営利団体の設立などに取り組まれ、教育・研究以外のフィールドでも活躍されている4名の研究者の方にお越しいただきました。本セミナーが、大学院生、若手研究者の先生、若手を指導される立場の先生など、ご参加の皆さまにとって有益な情報が得られるとともに、キャリア形成のヒントや新たな挑戦への後押しの機会になればと願っております。

また、若手研究者委員会では、若手研究者の交流を専門領域の枠を越えて促進することで、体育・スポーツ・健康分野の研究を活発にしていくことを目指しております。15領域ある研究領域の中から、1名ずつ選出され現在19名で活動し、セミナーの開催や、コラムリレーの配信、メーリングリストでの情報配信などもその活動の一環として行なっております。今回2回目となる若手の会企画セミナーも、今後も引き続き実施して参りますのでご参加のほどよろしくお願いいたします。

2. 各演者の話題提供報告

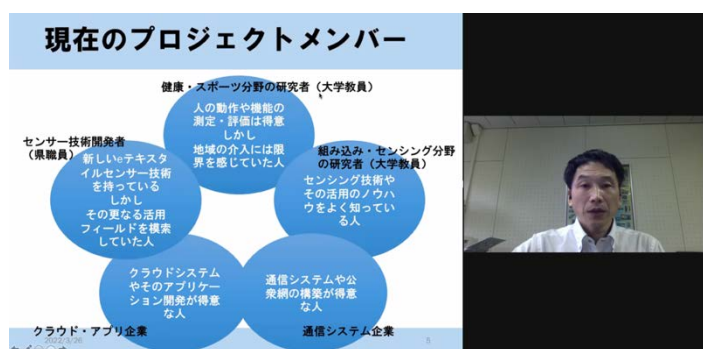
◆ 『健康・スポーツ科学分野における異分野連携のすすめ』

発表者：佐藤 進 氏（金沢工業大学）

自己紹介の後、現在実施されている、スマートシューズを利用した健康・見守り支援クラウドシステムの開発のお話をもとに、異分野連携・異分野交流の実践と効果についてお話を伺った。同事業は、測定評価を専門とされる氏の他に、工学部教員、県職員、

民間企業職員のチームで構成されており、開発されたセンサー技術を、地域が抱える課題解決のために現場に活かすという、まさに技術と研究・実践の融合であった。

異分野連携の良さについて、自分の分野での課題を解決できるスキルや環境を持つ人と繋がりヒントやアイデアを得られること、これまで関わりのなかった分野や人との魅力的な出会



いがあること、研究費獲得の面でも可能性を広げる手段となることなどが挙げられた。

氏は学生に「知らないこと」は「やりたいこと」にならないし、何事をするにも「選択肢にならない」と伝えているという。併せて、選択肢を広げることは解決策を見つけることや、キャリアを広げる上でも重要な視点であると述べられ、私たちに対するメッセージでもあった。

<関連資料>

—地域高齢者のためのスマートシューズによる健康・見守り支援クラウドシステムの開発—

20H04132 基盤研究 B 研究代表者 佐藤 進

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-20H04132/>

◆ 『キャリアの広げ方』

発表者：岩月 猛泰 氏（ペンシルベニア州立大学）

自己紹介をされた後、ご自身の研究内容について触れられた。氏は、運動学習やメンタルパフォーマンスをバックグラウンドとして持たれており、運動学習がどのように選択肢によって変わってくるのかについて研究をされている。教員以外の活動と

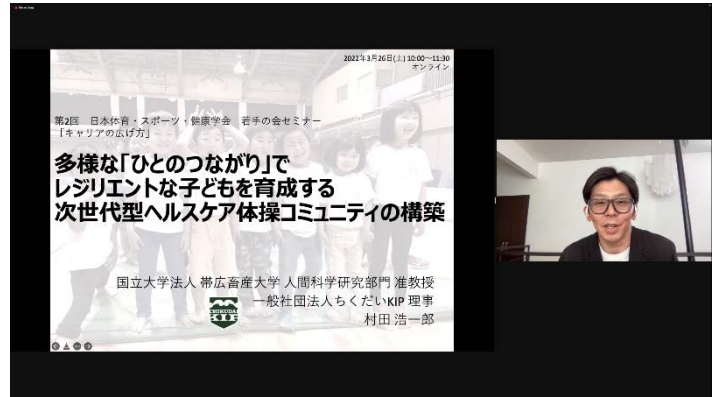


して、英文校閲のサポート、アメリカ留学のサポート、メンタルトレーニングのサポートを実施されている。それらをわかりやすくしているのが、Youtube での動画配信かもしれない。そのほか、外部講師としての活動もある。本題は、それらの仕事はどうやって入ってくるようになったのかである。2018 年の大学院生時代に、英語の論文を多数出版していることから、英語の論文を書くのを助けてほしい、という声掛けがあったことに端を発している。いずれの活動も、論文が書けるようになったから、留学したから、メンタルトレーニングを研究しているから、それらを HP や動画にまとめ、配信していることによるのではないだろうか。それらをサポートしてほしいというような流れで依頼を受けるようになって、キャリアを広げられたように感じている。

◆ 『多様な「ひとのつながり」でレジリエントな子どもを育成する次世代型ヘルスケア体操コミュニティの構築』

発表者：村田 浩一郎 氏（帯広畜産大学）

自己紹介の後、帯広での活動についてお話し頂いた。氏は体操教室によって地域を創っていくことを目指し、大学教員として活動する一方、会社を設立し、運営されている。大学院生の時とは異なる研究環境だったことから、総合型地域スポーツクラブを設立し、事業として運営して



いくことを考案されたという。現在は、子どもの体操教室を中心に据えつつ、さらに社会で困っている人たち（高齢者や障がい者等）を包摂したコミュニティの形成を視野に入れているという。また、企業・自治体との連携にも取り組んでおり、次世代を見据えた事業モデルやコミュニティのあり方について検討を重ねているという。近隣の町村とも連携し、事業を進め（氏はそれを「植樹」と表現している）、従来の教育委員会等ではできなかった運動の評価・ゴール設定までをパッケージ化したサービスの提供を行い、自治体に新たな知見を提示している。そして当該事業の根底には、「十勝で生きる子どもたちがもっと強く・たくましく・美しく育つことができる地域にする」という信念があり、そのために様々な知見を取り入れているとのことのお話があった。

◆ 『キャリアの広げ方』

発表者：野口 亜弥 氏（順天堂大学）

自己紹介の後、これまでのキャリア形成についてお話を伺うことができた。氏のキャリアの広げ方の原点は、専門種目のサッカーを通じたものであったという。

筑波大学卒業後、フランクリンピアス大学大学院（アメリカ）に



て修士課程を修了、その後スウェーデンでプロサッカー選手としてのキャリアを歩む中で芽生

えた。特に、アメリカ在学中に貧困家庭の子供たちに対するサッカーを通じた地域コミュニティの作り方に参加したことに始まり、現役引退後には、開発途上国（ザンビア）でスポーツを通じた女子教育に従事した経験、ドイツ（ベルリン）で開催されていた国際女子サッカーフェスティバルに参加したことなどがきっかけとなり、スポーツを通じて社会的課題にアプローチできることを実感した。中でも、スポーツを通じたジェンダー平等などに対する取り組みを日本で行いたいという思いが自分の軸になったという。

日本帰国後、スポーツ庁に所属。同課題に対する政策推進の中心的な役割を担う中で、研究的エビデンスに着手する人材が必要なのではないかという新たな問題点を見出した。そして、2018年より順天堂大学スポーツ健康科学部に着任。現在は、同大学においてスポーツにおけるジェンダー平等を促進するためのワークショップ等の取り組みを継続しながら、より国際的な関わりを持った活動を実現させるため、2020年「スポーツを通じて共生社会を目指す」という目標を掲げて S.C.P. Japan を立ち上げた。女子スポーツに対する多面的な支援 LGBTQ+をスポーツの立場からサポートすることに邁進されている。

3. 全体セッション報告

全体セッションでは、司会者（平塚先生）から登壇者に質問を投げかける形式で行われた。

Q:最近の大学教員が置かれている現状を鑑みると、研究業績が求められる一方、社会・地域貢献も求められているが、先生方はどのように両立を図っているのか。

- 佐藤先生：研究する上では、確かに資金（研究費）が必要である。とはいえ、科研費を申請するとしても、「社会にどう還元するか」が求められる。院生時代のテーマが、そのまま社会的ニーズにつながるとは限らない。そのため、今の研究の視点をずらしたり、視野を広げてみたりすることで、社会とつながる研究テーマになることもあるし、さらにその結果として自分の研究業績につながることもある。加えて、地域貢献については大学の立ち位置によっても異なる部分はあると思うが、「求められる」という姿勢に止まることなく、スポーツは社会の様々な問題を解決できるということを研究者が積極的に発信していくことも重要である。
- 岩月先生：アメリカの場合は、日本に比べて授業数や雑務が少ないため、研究活動と教育に集中できる環境にある。その意味では、教員としてアメリカの学生に貢献していると言える。また、現在は日本人向けの英文校正や留学の支援等、個人として貢献を行っている。将来的には、日本の人達にも貢献していきたいと考えている。

- 村田先生：研究と地域貢献のバランスをとるのは難しく、地域貢献に集中していたが、地域貢献をすればするほど研究活動や研究のベースの重要性を感じるようになっていく。したがって、研究を深くやればやるほど地域貢献も行いやすくなる。地域貢献の武器としても研究は必要である。
- 野口先生：実践がないと研究する場もないと考えているため、自分一人で全てをやろうとするのではなく、実践の場では実践のできる人たちを育て、自分は大学教員という立場でどのようにコーディネートしていくかを考えている。そして、実践の場ができてくれば研究の場もできてくると思って活動している。

Q：キャリアを広げていく過程で苦労したことや失敗したことには、どんなことがあったか。

- 佐藤先生：実践する場面でのハードルが高いこと。例えば、「スマートシューズを作りたい」とか「クラウドシステムを運用したい」という場合に研究所ではできるが、地域に展開して社会実装型の試験をしようという場合には、シューズの生産もクラウドシステムの運用も規模が大きくなるためできない。研究として、例えば科研費のような資金を獲得して一定期間の研究を行うことはできるが、その後に実際に社会実装を行う時のハードルは非常に高く、人にしても、資金にしても、パワーにしても、その壁をどう乗り越えるか悩ましい部分がある。研究から考えていくと、このような困難さを感じられる。
- 岩月先生：「きつかった」という点で言えば、英語ができなかったこと。24歳で留学をして会話ができない国に住むことは、本当に大変だった。留学生活は明るいイメージを持たれることも多いが、学生時代の7年間はずっと勉強していて地味な留学生活だった。今、振り返るとその時の勉強が現在のキャリアにつながっているとも感じている。
- 村田先生：教室に通う子どもやその保護者、自治体の人々等、関わる人が多いため、人によるストレスが多い。批判や厳しいことを言われることもある。ストレスを解消する方法としては、寝て忘れることを大切にしている。また、近年では新型コロナウイルスの影響により活動ができない時期があり、従業員の給与を支払えるか非常に危惧していたが、雇用調整助成金が認められ、安心した事例もある。このような従業員の雇用については、懸念事項である。
- 野口先生：現在、大きく分けて2つの課題がある。一つは実践活動もやって、研究活動もやるとなると、自分の長い人生において今どこに注力すべきか常に迷いがある。もう一つは、色々な活動をしているとやはり色々なことを考えなければならず、どこまでが研究活動なのか、どこまでが社会活動なのか、時間や思考の切り替えが難しいと感じている。

4. 交流セッション報告

交流セッションでは、2つのブレイクアウトルーム（1 佐藤先生・村田先生、2 岩月先生・野口先生）に分かれ、参加者がそれぞれ個別に話を伺いたいルームに入り、登壇者への質問やキャリアに関するディスカッションが行われた。

◆ ルーム1：佐藤 進先生・村田 浩一郎先生

Q:これから新しいことに挑戦しようとするとき、ある程度計画してから動くのか、動きながら計画するのか？どちらか？

- 佐藤先生：行き当たりばったりのところはある。研究費がついて始まるところは多々あるので、動きながら計画を整えていくことの方が多い。
- 村田先生：行き当たりばったりのところは多い。考えてやってみてミーティングに出してもらった方が、計画だけだしていくよりも具体的になっていく。

Q:新しいことを始めるとき、最初にどういう人に相談するか。

- 佐藤先生：お金もないし機具もないことは難点になるといえるだろう。大学院生の間は指導教員が調達してくれたりはするのだが、新しい環境に身を置くようになったとき、ハード面が整わないことがある。そういうときは、調査などお金のかからないところから研究をスタートしていった、助成金をもらうなどの工夫をしている。就職するまでは指導教員の指導の下研究をしっかり頑張ってもらいたい。
- 村田先生：ひとりでできないことはすごくわかっている。第一印象が悪い人が案外時間をかけて付き合っていくと、信頼関係が築けたりする。第一印象がいい人は逆に疑ってかかることがある。そうやって人とのコミュニケーションが欠かせないのが異分野連携であって、コミュニケーションの部分を大切にしている。

◆ ルーム2：岩月 猛泰先生・野口 亜弥先生

Q:若手としてまず研究をすすめるのか、社会貢献をするのかどう考えたら良いか。

- 岩月先生：仕事として自分ができることは、論文を書くことと教えることかと考えている。まずは自分ができることは研究。社会貢献については、実績を積んでからや、ゆとりができてからではないかと思う。アメリカの大学では論文がないと難しいということもある。

- 野口先生：自分の中では大学教員として研究する立場であるならばそれを確立していけないといけないと思っている。大学教員は、社会的なインパクトや信頼があるので、いくら良い実践をしていても、研究が伴っていないのではれば、社会・他の研究者からもそのようにみられる。そのためには、研究者としてまずやるべきことはやらなくてはならないと思っている。

Q:先生が情報発信で気をつけていることは何か

- 岩月先生：誰のために発信しているのかを意識することが大切。できるだけターゲットを絞って発信することで、その情報を求めている人に必要なメッセージが届けられる。
- 野口先生：団体の信頼性をしっかりと情報発信し、信頼性を得ていくことが大切。資金獲得等の申請書などにも影響してくるので、何をどう発信しているのかは意識して発信している。団体もそうだが、団体の代表が何を発信しているのかもみられている。

Q:情報発信のテーマを毎回どのように設定しているのか

- 岩月先生：質問をもらってそれに答えている。そうすると必ず誰かの知りたい内容になっているはず。発信したものが、資産として残っていく

Q:心が折れそうになった時、どう乗り越えたのか

- 野口先生：やりたいことをやっていきたいという思いがある。うまくいかないことはあるが、自分がやりたいことなので仕方ないと思う。周りにロールモデルがいることで高く意識できている。
- 岩月先生：大学生活までがキツかったしかし、どうしても博士号が取りたいので英語が必要だった。その点があったので、自分のこととして頑張り切ることができた。

Q:海外での研究計画をどう具体化、準備されたのか

- 岩月先生：アメリカでは修士課程でも研究方法論の授業が多くあり、五人の先生から色々な方法論を教わった。研究の行方や論文の書き方に対する練習をしっかりとできるのは、日本の大学の違いではないかと思う。若い先生にはぜひいろんなチャレンジをしてもらいたい。海外にはたくさんのジャーナルがあるので、英語論文の投稿にも積極的にチャレンジしてもらいたい。

5. 閉会挨拶

時間が短い中での交流セッションでまだ聞き足りない部分があった方もいらっしゃるかもしれませんが、両部屋とも活発な質問があり良かったと思います。ご参加いただきありがとうございました。セミナーは今後も実施していくこととなっております。後ほどアンケートをお送りいたします。本セミナーの評価、今後の要望テーマについてお聞かせください。報告書としてまとめて学会のホームページに掲載させていただきますのでご承知おきください。若手メーリングリストへの登録もどうぞよろしくお願いいたします。

みなさま今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

集合写真



本写真は、事前に承諾をいただいた上で撮影・掲載しています。

<報告書作成>

加藤彩乃 (アダブテット・スポーツ科学領域)

股村美里 (保健領域)

中澤雄飛 (体育哲学領域)

酒本夏輝 (運動生理学領域)

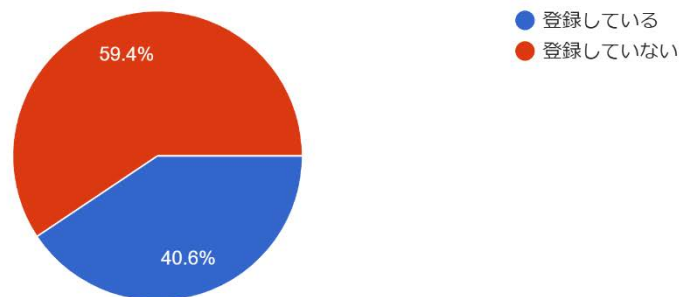
第 2 回

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会セミナー

参加者アンケートの結果

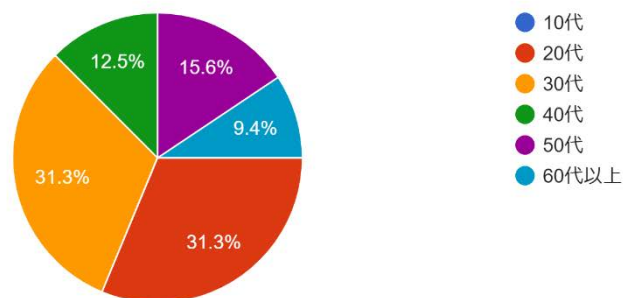
若手の会メーリングリストへの登録の有無を教えてください

32 件の回答



あなたの年齢（年代）を教えてください

32 件の回答



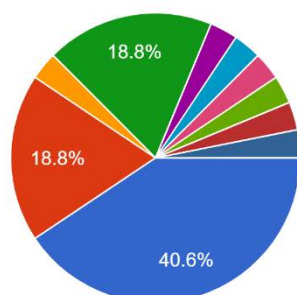
あなたのお立場（雇用形態）を教えてください

32 件の回答



今回のセミナーを知ったきっかけについて教えてください

32 件の回答

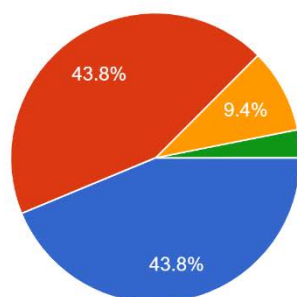


- 若手の会メーリングリスト
- 学会ホームページ
- SNS
- 知人の紹介
- 伊ワツキ先生のメール
- 日本体育・スポーツ・健康学会からの...
- 伊ワツキ先生のYoutube
- 大学院の連絡メール

▲ 1/2 ▼

本セミナー全体の内容はいかがでしたか？

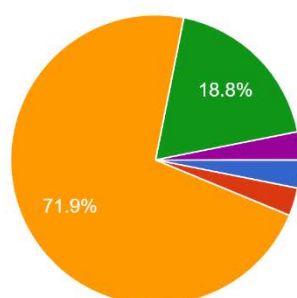
32 件の回答



- とても良かった
- 良かった
- どちらでもない
- あまり良くなかった
- 良くなかった

セミナー全体の時間はいかがでしたか？

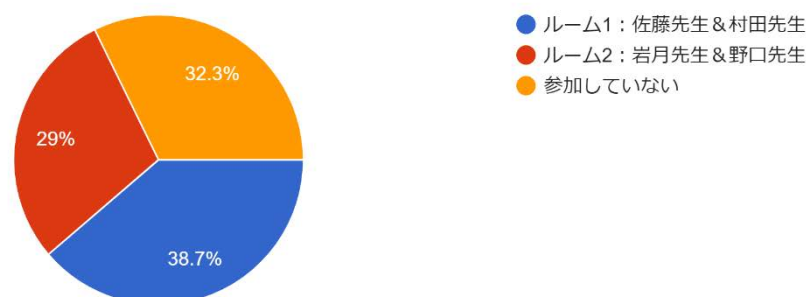
32 件の回答



- 長かった
- やや長かった
- ちょうどよかった
- やや短かった
- 短かった

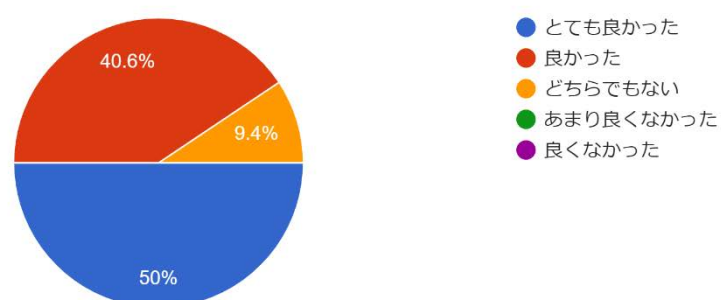
参加した交流セッションを教えてください

31 件の回答



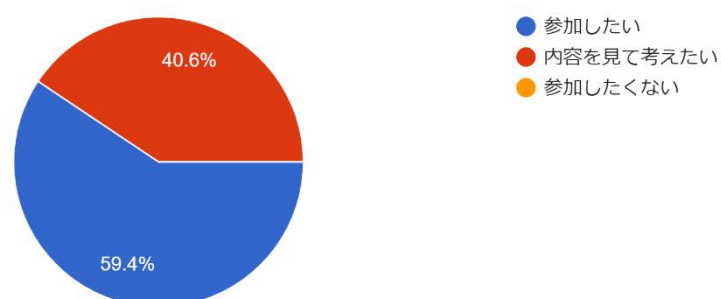
オンライン形式でのセミナー開催はいかがでしたか？

32 件の回答



次回以降も「若手の会」主催セミナーに参加したいか教えてください

32 件の回答



本セミナーに関するご意見・ご感想をご自由にお書きください

- たまたま見つけて興味本位で参加させてもらいましたが、自分の研究にも役立つ情報が多く、非常に有意義だった【30代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- さまざまな分野でご活躍されている先生方と交流させていただき、とても勉強になりました！ありがとうございました。【20代、有職者（研究教育職以外）】
- 4名の方がそれぞれの志を貫いて頑張っている姿からパワーをいただきました。ますますのご活躍を期待したいと思います。10年後の活躍されている姿も拝見したいと思います。【60代以上、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 地方にいる者として、定期的にWEBミーティングが実施されることはありがたい。【50代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 様々なキャリアをお持ちの演者から興味深い話を聞くことが出来ました。【50代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 遠隔での開催であったため、土曜日でも子守りをしながら参加できた。チャットでの質問をする方法も許可していただいた方が、更にディスカッションが盛り上がるように感じた。【30代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 講師の方々のキャリアの築き方が一様ではなく非常に良い機会だった。【20代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 2つ前の質問項目について、ルーム1・ルーム2両方覗きました【60代以上、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 質問はチャット機能も使っても良いと思いました【50代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 貴重なお話ありがとうございます。地域連携や学外での活動のお話を聞けて大変感心いたしました。私も現状大学では研究はするな地域貢献しろと指示が多く来ており、研究あつての地域貢献だと思っていましたが、それは間違いではないかと不安でおりました。しかしながら今回のセミナーで私の考えはまちがっていなかったと後押しをされました。そしてどんどん発信をすることが大切なんだと思わされました。セミナーに参加できて本当に良かったと思います。【30代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 途中からの参加となってしまったのでアーカイブ配信をつよく希望いたします。【40代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 「キャリアの広げ方」というテーマでしたが、肝心のキャリアの”広げ方”についてはほとんど誰も話をされていなかったように感じ、正直なところ大きく期待外れでした。例えば自治体との交渉をどのように進めたかとか、起業に際して各方面との調整・交渉をどのように行ったか、資金はどのように調達したか、留学先はどのように見つけたか、など”どのように”行ったか、が本来話題の中心になるべきセミナーだ

ったと思いますが、ほとんど”何を”行ったかという話ばかりで、リスナーとしてはこれからキャリアを広げるための参考にはならなかったと感じます。【30代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】

- 様々な分野でご活躍されている先生方がいらっしゃったので、それぞれの先生方から学べることもあり、とても良かったです。

次回以降の「若手の会」主催セミナーで取り上げて欲しいテーマがあれば教えてください

- 児童発達支援、放課後等デイサービスに関して【20代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 若手で活躍している先生の研究活動の進め方（タイムマネジメントなど）。どのように研究を進め、どのように論文を執筆しているのか。【50代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 学際研究の始め方 交流会（オフ会）【30代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 今回のテーマの第2段はいかがでしょうか？【50代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 若手の科研費、外部資金の取得セミナーがあればうれしいです。【30代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 若手から見える体育学の現状、体育学をめぐるポリティクス、博士号の取得まで（院生向け）【30代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 共同研究のマッチングのような会があれば参加してみたいと思います。【20代、有職者（研究者、教員、非常勤講師を含む）】
- 上記のように、何をテーマにセミナーを開催するにしても、真の意味で聴く側にとって参考になり、アクションを起こせるような話題提供をお願いしたいです。【30代、研究者、教員、非常勤講師を含む】

本セミナー全体の内容はいかがでしたか？

	良くなかった	あまり良くなかった	どちらでもない	良かった	とても良かった
20代	0	0	2	3	5
30代	0	1	0	6	3
40代	0	0	0	2	2
50代	0	0	1	2	2
60代以上	0	0	0	1	2

	良くなかった	あまり良くなかった	どちらでもない	良かった	とても良かった
フリーランス	0	0	0	1	0
会社員	0	0	0	1	0
学部生	0	0	0	1	0
大学院生（現職大学院生はこ ちらを選択してください）	0	0	1	2	2
有職者（研究教育職以外）	0	0	2	1	1
有職者（研究者・教員・非常勤 講師を含む）	0	1	0	8	11

本セミナー全体の時間はいかがでしたか？

	短かった	やや短かった	ちょうどよかった	やや長かった	長かった
20代	0	1	8	1	0
30代	0	2	7	0	1
40代	1	0	3	0	0
50代	0	1	4	0	0
60代以上	0	2	1	0	0

	短かった	やや短かった	ちょうどよかった	やや長かった	長かった
フリーランス	0	1	0	0	0
会社員	0	1	0	0	0
学部生	0	0	0	1	0
大学院生（現職大学院 生はこちらを選択して ください）	0	1	4	0	0
有職者（研究教育職以 外）	0	0	4	0	0
有職者（研究者・教 員・非常勤講師を含 む）	1	3	15	0	1

参加した交流セッションを教えてください

	ルーム1：佐藤先生 & 村田先生	ルーム2：岩月先生 & 野口先生	参加していない
20代	4	2	4
30代	4	5	1
40代	2	0	2
50代	1	1	3
60代以上	1	1	0

	ルーム1：佐藤先生 & 村田先生	ルーム2：岩月先生 & 野口先生	参加していない
フリーランス	1	0	0
会社員	1	0	0
学部生	0	0	1
大学院生（現職大学院生は こちらを選択してください）	3	0	2
有職者（研究教育職以外）	1	0	3
有職者（研究者・教員・非常勤講師を含む）	6	9	4

オンライン形式でのセミナーはいかがでしたか？

	良くなかった	あまり良くなかった	どちらでもない	良かった	とても良かった
20代	0	0	0	3	6
30代	0	0	1	7	2
40代	0	0	0	0	4
50代	0	0	1	2	2
60代以上	0	0	0	1	2

	良くなかった	あまり良くなかった	どちらでもない	とても良かった	良かった
フリーランス	0	0	0	0	1
会社員	0	0	0	1	0
学部生	0	0	0	0	1
大学院生（現職大学院生は こちらを選択してください）	0	0	0	2	3
有職者（研究教育職以外）	0	0	2	2	0
有職者（研究者・教員・非常勤講師を含む）	0	0	1	11	8